

(表 1) 2009 年GWの旅行人数、平均旅行費用、旅行消費額

	2009 年GW			2008 年GW	
	推計値	前年比	前年増減	実績推計	発表値
総 旅 行 人 数	2,190.0 万人	+3.0%	64.6 万人	2,125.4 万人	2,190.2 万人
国内旅行人数	2,140.0 万人	+2.9%	+60.0 万人	2,080.0 万人	2,144.4 万人
海外旅行人数	50.0 万人	+10.1%	+4.6 万人	45.4 万人	45.8 万人
国内旅行平均費用	36,900 円	▲5.6%	▲2,200 円	39,100 円	39,200 円
海外旅行平均費用	216,800 円	▲14.9%	▲37,900 円	254,700 円	254,700 円
総 旅 行 消 費 額	8,981 億円	▲3.3%	▲308 億円	9,289 億円	9,573 億円
国内旅行消費額	7,897 億円	▲2.9%	▲236 億円	8,133 億円	8,406 億円
海外旅行消費額	1,084 億円	▲6.2%	▲72 億円	1,156 億円	1,167 億円

* 旅行人数は、延べ人数

* 平均費用は一人1回あたりの費用

* 国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む

* 海外旅行平均費用は、旅行先での土産代等の現地支払費用は除く（燃油サーチャージは含む）

* 文章中の()内は、前年増減ポイントまたは前年増減比

<2009年GW期間の旅行の特徴>

① 16連休も可能で、長期間、遠距離、何度もの旅行と、自分に最適な過ごし方を選べる曜日配列

今年のGW休暇は5月2日(土)～6日(休)の5日間が一般的だが、平日に休暇を入れると様々なパターンとなるのが特徴だ。連休の谷間の平日が昨年は3日であったのに対し今年も2日、しかもそれが3回もある。過去の海外旅行者の動きを見ても、谷間の平日が2日の場合はその平日に出発する人数が多く、平日に休暇を取っていることが伺える。今年も、4月27日、28日を休むと5連休が2回、30日と1日を休んで29日から8連休、平日を6日休むと最大16連休まで可能で、仕事や家族の都合に合わせて長期の休日を満喫できる。

【連休のパターン例】

- ① 5連休×2回 4月27日(月)、28日(火)を休むと 4月25日(土)～29日(祝) と 5月2日(土)～6日(休)
- ② 8連休 30日(木)、5月1日(金)を休むと 4月29日(祝)～5月6日(休)
- ③ 9連休 5月7日(木)、8日(金)を休むと 5月2日(土)～10日(日)
- ④ 12連休 4月27日、28日、30日、5月1日、7日、8日のうち4日間休むと
4月25日(土)～5月6日(休) または 4月29日(祝)～5月10日(日)の12連休
- ⑤ 16連休 4月27日、28日、30日、5月1日、7日、8日の6日間休むと16連休

(表2) 今年と昨年の曜日配列比較(平日を休むと、今年はいろいろな休日パターンとなる)

	25日	26日	27日	28日	29日	30日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日
2008年	金	土	日	月	祝	水	木	金	祝	祝	祝	休	水	木	金	土
今年	土	日	月	火	祝	木	金	土	祝	祝	祝	休	木	金	土	日

② 海外旅行は29日、2日、国内旅行は2日～4日が出発のピーク

JTBの海外パッケージツアー・ルックJTB(以下、ルックJTB)の予約状況を見ると、遠距離の欧州、米国、オセアニアやハワイは4月29日が、近隣アジアやグアム・サイパンは5月2日の出発がピークとなっている。また、ハワイやアジア、欧州方面へは連休後半に出発する人も目立つ。連休パターンを上手く利用し、料金が下がる出発日を選んでいる賢い消費者の姿も垣間見られる。

一方、国内旅行は2日(土)、3日(祝)、4日(祝)の宿泊が中心となっている模様。高速道路料金の値下げを利用するとどうしても2日(土)から5日(祝)の出発に偏るが、各旅館の予約状況や宿泊料金設定からすると29日前後なら今からでも十分予約が可能でピーク時期より安く利用できそうだ。

GW期間中は、もともとレジャー利用が多い期間であることからビジネス需要の減少の影響も少ない。従って、100年に1度といわれる経済不況にもかかわらず、国内旅行人数は2,140万人(対前年比+2.9%)と2年ぶりに増加、海外旅行人数は3年ぶりに増加し50万人(同+10.1%)になると推計。

③ 平均費用は燃油サーチャージや旅行費用の値下げ、景気の影響で昨年より低下

今年の海外旅行費用は、燃油サーチャージの大幅値下げの影響が大きい。さらに、ビジネス客の減少によりホテル料金が弱めに推移しており、円高効果と相まって4月以降の旅行費用は低下傾向にある。旅行先は欧州など遠距離方面が人気だが、それ以上に旅行費用の低下が平均旅行費用を押し下げている。

国内旅行は、高速道路料金やガソリン代の値下げの影響が大きい。アンケートにも表れているとおり経済不況の影響は否めなく、支出意欲は昨年までと比較し弱含みとなっており、旅行費用は低下する模様だ。

これらの状況から、国内旅行平均費用は36,900円(▲5.6%)、海外旅行平均費用は216,800円(▲14.9%)と低下する見込み。総消費額は8,981億円(▲3.3%)となる見込み。

(表 3) 日本航空日本発方面別燃油サーチャージ(往復)

(単位:円)

	2008年			2009年		前年GW期との差額	前年10~12月との差額
	4月	7月	10月	1月	4月		
韓国	5,000	7,000	8,000	5,000	400	▲4,600	▲7,600
グアム	16,000	21,000	26,000	15,000	2,000	▲14,000	▲24,000
タイ・マレーシア・シンガポール	28,000	40,000	40,000	25,000	3,000	▲25,000	▲37,000
ハワイ	28,000	40,000	44,000	29,000	4,000	▲24,000	▲40,000
オセアニア・北米・ヨーロッパ	40,000	56,000	66,000	44,000	7,000	▲33,000	▲59,000

<海外旅行の特徴>

・燃油サーチャージの大幅値下げ、円高傾向、旅行費用の低下で海外旅行者数は3年ぶりに増加

GWの海外旅行は、曜日配列や景気をはじめその時々々の環境に大きく影響を受ける。経済不況下にもかかわらず今年は燃油サーチャージの大幅値下げ、円高傾向、旅行費用の低下など海外旅行者にとってのメリットが大きいようだ。特に毎年海外旅行を楽しんでいるリピーターにとっては絶好のチャンスとなっている。

2月の韓国への海外旅行者数が前年比70%増となっているとおり、円高の傾向は、ショッピングや食事などを楽しむ海外旅行者の行動を活発化させた。

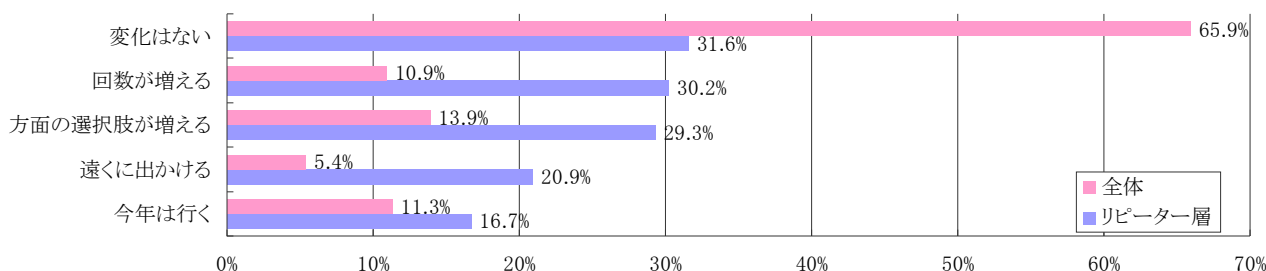
また、円高は旅行費用の低下にも一部貢献している。海外旅行費用は円建ての航空運賃の占める割合が高く為替変動にそのまま連動はしないものの、外貨建てのホテル代や観光関連諸費用を下げる効果を持っている。例えば、ルックJTBの代表的コース「イタリア満喫8日間」4月26日(日)出発の旅行費用は、昨年25日(日)出発より20%以上安くなっている。燃油サーチャージを含めると18万円(▲28.6%)もお得になっており、海外旅行者の消費意欲を大いに刺激しているようだ。

(表 4) 為替相場(東京外国為替相場/T. T. S三菱東京UFJ銀行調べ)

	米ドル	ユーロ	英国ポンド	オーストラリアドル	韓国ウォン
09年3月31日;A	99.23	131.34	144.45	69.01	7.23
08年3月31日;B	101.19	159.69	204.11	93.74	10.31
変動率;(B-A)/B	1.9%	17.8%	29.2%	26.4%	29.9%

2009年3月に行ったアンケートで燃油サーチャージの効果について尋ねたところ、年1回以上旅行をしているリピーター層は、「回数が増える」との回答と共に「旅行先の選択肢が増える」、「遠くに出かける」といった希望が多い。もともとリピーター層の多いGW期間中の予約状況も遠距離方面が好調で、同じような傾向が表れている。

(グラフ 1) 海外旅行リピーター層への燃油サーチャージ値下げ効果



・値下がり効果を活用して、カップルやグループで欧州、ハワイ、オセアニアなど遠距離方面へ

近隣アジア(韓国、中国、台湾)方面への旅行者は円高効果でGW期間中も好調に推移。長期休暇が可能なことと前記の好条件が後押しして、今年のGWは欧州など遠距離方面も好調だ。ルックJTB(東京発)の

予約状況で好調なものも、欧州、ハワイ、オセアニアなどの遠距離方面となっている。

(表5) ルックJTB(東京発)の4月25日～5月5日出発分の販売人員前年同期比(3/27現在)

全方面計	ハワイ	グアム	北米	欧州	アジア	中国	オセアニア
110%	131%	73%	86%	124%	113%	132%	121%

<国内旅行の特徴>

・高速道路料金の値下げ、ガソリン代の安定、定額給付金の支給が好影響！！久しぶりに帰省も増加

3月28日(土)から始まった高速道路料金の値下げが、昨年停滞していたドライブ旅行を活性化している。特に、土日・祝日の高速道路地方部分の「どこまで行っても1,000円」は、遠距離利用ほどお得感があることから、ファミリー層を中心に遠出や帰省に利用されそうだ。

昨年はガソリン代も乱高下しドライブ旅行を鈍らせた。レギュラーガソリン代は昨年3月末日1リットル当たり全国平均で152.9円したが、今年は111.5円と約40円も値下がりしている。100リットル利用で4,000円削減できることは、金額以上に旅行意欲をかき立てる効果大きい。また、定額給付金の支給がよいよ本格的に始まる。利用意向の上位に必ず旅行が入っていることから旅行意欲の拡大に寄与すること間違いない。

これらの環境を利用して、家族そろっての帰省が増加しそうだ。アンケートの旅行目的で帰省が増加していること、また、宿泊先で実家が増加していることにその傾向が表れている。

・「開国博Y150」(横浜開港150周年記念テーマイベント)を中心に首都圏は大賑わい。

1859年(安政6年)の開国・開港から150周年を迎える横浜で、4月28日から街中を舞台に博覧会が開催される。みなとみらい地区のベイサイドエリアをメイン会場に、食やファッションの店が集まる横浜駅から山下・山手地区のマザーポートエリア、自然が残るズーラシア周辺のヒルサイドエリアの3地区で、昼夜を問わずさまざまな行事が催される。

このほか首都圏エリアでは、25周年記念行事が終わった東京ディズニーリゾート®では新しいアトラクションがスタート。東京国際フォーラムで開催されるラ・フォル・ジュルネ「熱狂の日」音楽祭はバッハがテーマ。国立西洋美術館(上野公園)と国立新美術館(六本木)で2つのループル美術館展、東京国立博物館平成館で「国宝 阿修羅展」が開催されている。今年も首都圏は各地からまた周辺からの行楽客で賑わいそうだ。

・関西は「キッザニア甲子園」と「JR全国キャンペーン効果」で神戸地区が人気

子供向け仕事体験テーマパーク「キッザニア」が、アーバンドックららぽーと豊洲(東京・江東区)に続き、西宮市のららぽーと甲子園に3月27日にオープンした。小学校低学年の子供のいるファミリー層を中心に賑わいを見せることは間違いない。また、「あなたに会いたい兵庫がいます」と銘打ったJRの全国キャンペーンが4月から開始されることもあり、今年の関西地区は西宮から姫路にかけての地区に注目が集まりそうだ。

<調査方法>

調査地点: 全国200地点

調査実施期間: 2009年3月4日～16日

調査対象: 全国15歳以上79歳までの男女個人

サンプル数: 1,200名

調査内容: 2009年4月25日から5月5日に実施する1泊以上の旅行(海外旅行を含み、商用、業務等の出張旅行は除く)

調査方法: 調査員200名により質問用紙を使った個別訪問調査(100%回収)

(表 2) 2009 年GW(4/25~5/5 発)の海外旅行人数推計

(単位:千人)

	2009 年	2008 年	前年比
総数	500	454	+10.1%

アジア合計	302	262	+15.3%
韓国	98	74	+32.4%
中国	85	75	+13.3%
香港	25	23	+8.7%
台湾	23	21	+9.5%
タイ	21	22	▲4.5%
シンガポール	8	8	0%
インドネシア	13	12	+8.3%
マレーシア	8	7	+14.3%
その他	21	20	+5.0%

北米州合計	104	104	0%
ハワイ	38	35	+8.6%
グアム・サイパン	29	31	▲6.5%
米国本土	32	33	▲3.0%
カナダ	5	5	0%

欧州合計	69	64	+7.8%
------	----	----	-------

大洋州合計	18	18	0%
オーストラリア	14	13	+7.7%
ニュージーランド	2	2	0%
南太平洋	2	3	▲33.3%

その他(アフリカ・中近東・中南米)	7	6	+16.7%
-------------------	---	---	--------

(表3)利用宿泊施設(海外旅行を除く)

(複数回答)

	%	昨年差
① 旅館	34.7	+ 6.7
② ホテル	29.3	+ 0.3
③ 実家・知人宅	31.5	+ 3.0
④ 民宿・ペンション	9.3	▲ 4.2
④ その他	4.0	0

(表4)利用交通機関(海外旅行を除く)

(複数回答)

	%	昨年差
乗用車	66.3	+ 0.5
鉄道	27.5	▲ 0.8
JR新幹線	17.3	▲ 1.8
JR在来線・私鉄	10.2	+ 1.0
長距離バス	7.7	+ 1.8
航空機	12.9	▲ 3.7
フェリー・船舶	1.8	+ 0.8

(表5)同行者

(単一回答)

	%	昨年差
家族づれ	66.2	▲ 3.5
子供づれ(中学生まで)	37.2	+ 0.4
夫婦のみ	16.0	▲ 6.5
その他(三世代・母娘等)	13.0	+ 2.6
友人・知人	14.6	▲ 1.5
親しい友人と2人	4.4	+ 1.3
友人と2~3人	10.2	▲ 2.8
グループ	6.2	0
ひとり	8.4	+ 4.3

(表6)旅行先(海外旅行を除く)

(単一回答)

	%	昨年差
北海道	4.4	▲ 2.9
東北	9.8	▲ 0.5
関東	24.8	+ 0.5
甲信越	8.9	+ 0.3
東海	9.8	+ 1.0
北陸	3.1	0
近畿	12.9	+ 2.0
中国	5.2	+ 2.1
四国	2.2	0
九州	11.1	+ 0.7
沖縄	1.8	▲ 2.4

(表7)旅行目的(上位 10 位)

(単一回答)

	%	昨年差
① 帰省、離れて暮らす家族と過ごす	21.8	+ 4.6
② 温泉やリゾートでゆっくりする	16.9	▲ 3.7
③ 家族と楽しく過ごす	12.9	▲ 1.6
④ 自然や風景を楽しむ	11.6	▲ 0.1
⑤ 友人と楽しく過ごす	6.7	+ 1.5
⑥ 史跡や名所を見る	6.7	+ 3.7
⑦ テーマパーク・レジャー施設	6.2	+ 0.1
⑧ 趣味を楽しむ	4.4	+ 0.3
⑨ 食事・地域の味覚を楽しむ	4.0	+ 1.8
⑩ 宿泊施設の滞在を楽しむ	2.2	+ 0.6

(表8)旅行日数

(単一回答)

	%	昨年差
1泊2日	38.7	0
2泊3日	30.7	▲7.1
3泊4日	20.4	+ 2.3
4泊5日	3.1	+ 0.5
5泊6日	1.3	+ 0.1
6泊7日	0.1	0
7泊8日	2.2	+ 1.7
8泊以上	1.7	+ 1.4

(表9)旅行に行かない理由(上位 10 位)

(複数回答)

	%	昨年差
① GWは混雑するから	37.5	▲ 3.1
② 家でゆっくりしたい	25.2	+ 0.2
③ 景気が悪いので支出を控える	22.4	+ 11.9
④ GWは旅行費用が高いから	21.7	▲ 1.2
⑤ 日曜祝日が休みでないから	16.3	▲ 3.8
⑥ 仕事などで休暇が取れない	16.1	+ 0.4
⑦ 他の時期に旅行するため	15.6	+ 0.3
⑧ 家計の制約がある	14.1	+ 3.7
⑨ 何となく	13.8	+ 1.8
⑩ 事情で家を離れられない	9.0	+ 0.1

(表10)旅行支出に対する意向の変化(調査月ベース)

(単一回答)

()は昨年差

	今回(2009年3月)		前回(2008年3月)		前々回(2007年3月)	
支出をふやしたい	13.3	(▲3.0)	16.3	(+1.0)	15.3	(▲0.8)
支出は同程度	50.5	(▲5.7)	56.2	(▲1.0)	57.2	(+2.7)
単価減らし回数増やす	11.2	(▲1.1)	12.3	(0.0)	12.3	(+1.0)
単価増やし回数減らす	6.5	(▲1.8)	8.3	(0.0)	8.3	(+2.4)
単価も回数も同程度	32.8	(▲2.8)	35.6	(▲1.0)	36.6	(▲0.7)
支出を減らしたい	34.4	(+10.6)	23.8	(▲1.0)	24.8	(▲1.7)

* (表3)～(表11)無回答があるため合計100%にはなりません。

(表11) 「GW旅行動向」数値(1998年～)の推移

	旅行人数(万人)			旅行平均費用(円)		総消費額(億円)		
	総数	国内旅行	海外旅行	国内旅行	海外旅行	総数	国内	海外
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
1998年 (4/25～5/5)	1,955.9	1,911.0	44.9	38,445	210,717	8,293	7,347	946
	+1.8%	+1.7%	+7.4%	▲1.9%	▲5.5%	▲0.1%	▲0.3%	+1.5%
1999年 (4/28～5/8)	2,064.4	2,011.2	53.2	40,636	213,327	9,308	8,173	1,135
	+5.5%	+5.2%	+18.5%	+5.7%	+1.2%	+12.2%	+11.2%	+20.0%
2000年 (4/27～5/7)	2,150.4	2,094.0	56.4	40,433	228,558	9,756	8,467	1,289
	+4.2%	+4.1%	+6.0%	▲0.5%	+7.1%	+4.8%	+3.6%	+13.6%
2001年 (4/26～5/6)	2,206.5	2,152.6	53.9	41,767	239,072	10,280	8,991	1,289
	+2.6%	+2.8%	▲4.4%	+3.3%	+4.6%	+5.4%	+6.2%	+0.0%
2002年 (4/25～5/5)	2,169.3	2,120.3	49.0	39,595	246,005	9,600	8,395	1,205
	▲1.7%	▲1.5%	▲9.1%	▲5.2%	+2.9%	▲6.6%	▲6.6%	▲6.5%
2003年 (4/24～5/4)	2,090.7	2,067.3	23.4	38,983	254,369	8,654	8,059	595
	▲3.6%	▲2.5%	▲52.2%	▲1.5%	+3.4%	▲9.9%	▲4.0%	▲50.6%
2004年 (4/24～5/4)	2,169.8	2,116.9	52.9	39,334	245,720	9,627	8,327	1,300
	+3.8%	+2.4%	+126.1%	+0.9%	▲3.4%	+11.2%	+3.3%	+118.5%
2005年 (4/27～5/7)	2,175.5	2,121.1	54.4	38,890	253,180	9,626	8,249	1,377
	+0.3%	+0.2%	+2.8%	▲1.1%	+3.0%	▲0.0%	▲0.9%	+5.9%
2006年 (4/26～5/6)	2,201.6	2,146.6	55.0	38,993	250,584	9,748	8,370	1,378
	+1.2%	+1.2%	+1.1%	+0.3%	▲1.0%	+1.3%	+1.5%	+0.1%
2007年 (4/25～5/5)	2,202.3	2,148.7	53.6	39,100	251,700	9,750	8,401	1,349
	+0.0%	+0.1%	▲2.5%	+0.3%	+0.4%	+0.0%	+0.4%	+2.1%
2008年 (4/25～5/5)	2,125.4	2,080.0	45.4	39,100	254,700	9,289	8,133	1,156
	▲3.5	▲3.2	▲15.3	0	+1.2	▲4.7	▲3.2	▲14.3
2009年 (4/25～5/5)	2190.0	2,140.0	50.0	36,900	216,800	8,981	7,897	1,084
	+3.0	+2.9	+10.1	▲5.6	▲14.9	▲3.3	▲2.9	▲6.2

* 調査開始は1969年。

* 平均費用については、1993年より推計。2003年以前は動向結果により前年の発表数値から一部修正。

* 海外旅行人数は実績値。

* 国内旅行人数は推計値で、2003年以前は動向結果により前年の発表数値から一部修正。